

令和2年度 保護林モニタリング調査結果について

1. 調査箇所

本年度の保護林モニタリング調査箇所は、下記のとおり合計 15 箇所である。

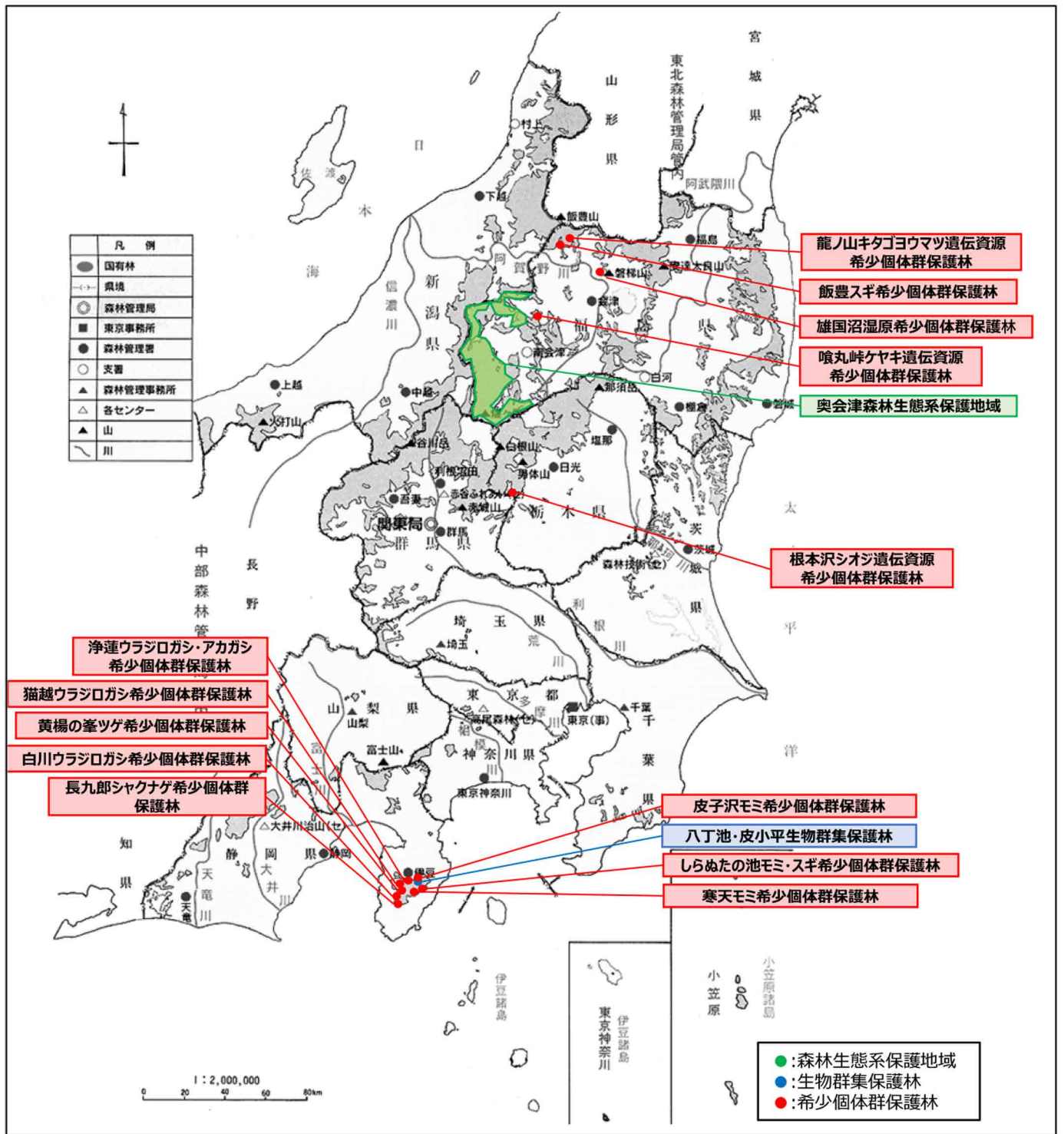
○森林生態系保護地域	:	1 箇所
○生物群集保護林	:	1 箇所
○希少個体群保護林	:	13 箇所
合計	:	15 箇所

2. 保護林の概要

現地調査を実施した各保護林について、保護林の種類、名称、現地調査実施日等は表 2-1 のとおりである。また、各保護林の位置は、図 2-1 のとおりである。

表 2-1 本年度の保護林調査箇所一覧

保護林番号	名称	種類	森林計画区	森林管理署	面積(ha)	林班	調査プロット数 (内新設の数)	新設	調査実施日
生態 4	奥会津	森林生態系保護地域	会津	会津 南会津	10901.17 73,091.01 計83992.18	609林班外 1015林班外	10 (2)	○	既設調査：2020/8/4~8/6 新規プロットの検討：2020/8/21~8/22 新規プロット調査：2020/9/9
群集 1 3	八丁池・皮子平	生物群集保護林	伊豆	伊豆	636.75	181林班外	6 (3)	○	既設調査：2020/7/28~7/30 新規プロットの検討：2020/9/16~9/17 新規プロット調査：2020/10/26~10/30
希少 6	飯豊スギ	希少個体群保護林	会津	会津	36.00	322林班	2	-	2020/9/8~9/9
希少 7	喰丸峠ケヤキ遺伝資源	希少個体群保護林	会津	会津	5.93	567林班	2	-	2020/7/16~7/17
希少 8	龍ノ山キタヨウマツ遺伝資源	希少個体群保護林	会津	会津	5.63	329林班	2	-	2020/9/8~9/9
希少 9	雄国沼湿原	希少個体群保護林	会津	会津	174.13	413林班	6	-	2020/8/19~8/21
希少 4 0	根本沢シオジ遺伝資源	希少個体群保護林	利根下流	群馬	21.28	413林班	3	-	2020/7/8~7/9
希少 7 4	皮子沢モミ	希少個体群保護林	伊豆	伊豆	11.26	231林班外	2	-	2020/6/24~6/26、10/28
希少 7 5	寒天モミ	希少個体群保護林	伊豆	伊豆	11.29	635林班	2	-	2020/7/28~7/30
希少 7 6	黄楊の峯ツゲ	希少個体群保護林	伊豆	伊豆	18.85	459林班	2	-	2020/9/28~9/29
希少 7 7	浄蓮ウラジロガシ・アカガシ	希少個体群保護林	伊豆	伊豆	37.35	93林班外	2	-	2020/6/24~6/26
希少 7 8	白川ウラジロガシ遺伝資源	希少個体群保護林	伊豆	伊豆	5.08	461林班外	1	-	2020/10/26~10/30
希少 7 9	しらぬたの池モミ・スギ	希少個体群保護林	伊豆	伊豆	39.96	732林班	2	-	2020/6/24~6/26
希少 8 0	長九郎シャクナゲ	希少個体群保護林	伊豆	伊豆	7.38	497林班外	1	-	2020/10/26~10/30
希少 8 1	猫越ウラジロガシ	希少個体群保護林	伊豆	伊豆	11.28	61林班	2	-	2020/9/28~9/29



※関東森林管理局 HP 関東森林管理局案内図に追記

図 2-1 本年度の保護林調査位置

3. 結果概要

本年度調査を実施した保護林モニタリング調査結果の概要は、表 3-1 のとおりである。

表 3-1 保護林別調査結果

保護林番号	名称	種類	確認できた影響	評価
生態4	奥会津	森林生態系保護地域	影響なし	野生鳥獣による被害や病虫害等は見られず、良好な状態で維持されていると評価されるため、前回調査時同様に今後の変化の兆候に留意したモニタリングを継続していくことが重要である。
群集13	八丁池・皮子平	生物群集保護林	ア.野生鳥獣 (ニホンジカ)	上層を構成するブナやヒメシャラ等は病虫害、気象害等は見受けられないが、保護林全体としてニホンジカによる食害が著しく、ニホンジカの忌避植物とされている植物以外の林床植生の生育は僅かであった。保護対象の立木の低木や実生の生育も僅かであった。
希少6	飯豊スギ	希少個体群保護林	影響なし	上層を構成するスギの大径木は健全に生育しており、次世代を担う保護対象種の低木及び稚樹や実生も確認されている。
希少7	喰丸峠ケヤキ 遺伝資源	希少個体群保護林	影響なし	上層を構成する高齢のケヤキは概ね健全に生育しており、その林床には、次世代を担うケヤキの実生や稚樹が確認できたことから、保全対象であるケヤキの遺伝資源の保存には大きな問題は生じていない。
希少8	龍ノ山キタゴヨウマツ 遺伝資源	希少個体群保護林	影響なし	調査プロット内外には、ツキノワグマの樹皮剥ぎによる被害が確認された。上層を構成するキタゴヨウマツは健全に生育している。次世代を担う中低木は見られないが、実生は確認されている。
希少9	雄国沼湿原	希少個体群保護林	カ.その他 (乾燥化)	過年度と比較し低木層の侵入が多く確認され、出現種数も増加していることから、湿原の乾燥化が進行しているとみられる。特に湿原の入り口付近の構成種及び出現種数の変化が著しい。
希少40	根本沢シオジ 遺伝資源	希少個体群保護林	ア.野生鳥獣 (ニホンジカ)	上層木を構成するシオジを含め、生育している立木に枯損、折損、倒伏等は認められず、健全に生育している。低木層、草本層が少なく、林床は見通しの良い状態。一部の低木は1.5m以下の高さまで梢端や枝先に食痕が見られる。草本層について1、2年程度の実生は点在するが、草本の分布は僅かに落葉に覆われた林床が露出している。
希少74	皮子沢モミ	希少個体群保護林	ア.野生鳥獣 (ニホンジカ)	上層を構成するモミは老齢木が多く、幹折れや枯損している個体が散見される。また、保護林内部の林床植生の多くが地衣類に覆われており、次世代を担うモミの低木、稚樹・実生はほとんど見受けられない。
希少75	寒天モミ	希少個体群保護林	ア.野生鳥獣 (ニホンジカ)	上層を構成するモミについては健全な状態で維持されているが、次世代を担うモミなどの低木や稚樹の個体数はわずかであった。ニホンジカによる過食圧によりプロット内の林床植生の植被率は著しく低下している。
希少76	黄楊の峯ツゲ	希少個体群保護林	ア.野生鳥獣 (ニホンジカ)	保護対象種であるツゲの生育地は保護林北部であるが、健全に生育している。次世代を担うツゲの低木についてはプロット内で確認されている。
希少77	浄運ウラジロガシ・アカガシ	希少個体群保護林	ア.野生鳥獣 (ニホンジカ)	上層にカスミザクラなどの落葉高木やアカマツの老齢木が健全に生育している。ニホンジカの過食圧により、林床植生はほとんど見られない。
希少78	白川ウラジロガシ 遺伝資源	希少個体群保護林	ア.野生鳥獣 (ニホンジカ)	上層のシイ・カシ類の大径木は健全に生育しているが、次世代を担う中低木は少なく、植生調査でも低木及び草本層で僅かに確認されている程度である。
希少79	しらぬたの池モミ・スギ	希少個体群保護林	ア.野生鳥獣 (ニホンジカ)	上層を構成するモミの大径木については健全に生育しているが、モミの低木、稚樹、実生は全く生育していない。ニホンジカの食害により影響が著しく、林床植生はほとんど確認できない。
希少80	長九郎シャクナゲ	希少個体群保護林	ア.野生鳥獣 (ニホンジカ) カ.その他 (樹冠の閉鎖)	林内の樹冠が閉鎖しており、他の常緑広葉樹と競合しているとみられる。次世代を担う稚樹や実生の個体数は僅かに確認されたが、ニホンジカの過食圧による被害が著しい。
希少81	猫越ウラジロガシ	希少個体群保護林	ア.野生鳥獣 (ニホンジカ) イ.病虫害 (ナラ枯れ)	上層を構成するウラジロガシの大径木にナラ枯れの被害が見られる。また、ニホンジカの食害による被害が顕著に現れており、保護林内の林床植生はほとんど見られない。
計		15箇所		

【保護林への影響の種類】□

ア.野生鳥獣 イ.病虫害 ウ.外来種 エ.温暖化 オ.自然攪乱 カ.その他 影響なし